

2004 年度秋学期・後期 関西大学「学生による授業評価」アンケートに対するコメント

所属	専任のみ記入してください。 商学部	資格	どちらかに○印をつけてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 専任 <input type="checkbox"/> 非常勤	氏名	長谷川 伸
授業科目	アンケートを実施されたすべての科目（学部）を記入してください。 国際投資論（文学部・商学部）				

複数の実施科目について一括してコメントしていただいても、科目ごとのコメントでも結構ですが、なるべく1枚以内に収めてください。

「学生による授業評価」アンケート結果については、シラバスなど基本的な情報とともにすでにウェブページ¹⁾に全て掲載しています。したがって、ここでは集計結果をどう見るか、集計結果と自由記述を今後の授業改善にどう生かしていくかについて述べます。なお、ここで取り上げるのは、金曜3限のデイトタイムコース向けの国際投資論です。金曜6限のフレックスコース向けの国際投資論は履修者が極端に少ないために取り上げません。

■学生が授業の企画・実施・伝承に参画する国際投資論

シラバスによると国際投資論は「学生参画型、すなわち教員の教育的配慮のもとに、受講学生が主体的に、授業の企画・実施・伝承に参画する授業をめざします。したがって、毎回の授業への出席はもちろん、授業外での相当量の学習・活動が必要です」。この点でレクチャー中心の授業形態（講義）をとる他の多くの専門教育科目とは大きく異なります。しかも決して「ラク」ではなく間違いなく「しんどい」授業です。授業中には授業への積極的関与が常に求められ、授業時間外では授業準備や個人課題があるからです。「あの授業はしんどい」との評判がある関係でしょうか、専門教育科目としては少人数です。

国投	学部	全学	デイトタイムコース/後期/金曜3限/履修者73名/回答者39名/回答率53.4%		
4.6	4.0	4.0	1	授業内容は、講義要項、授業計画等で示したものに沿った内容でしたか。	
4.5	3.8	3.8	2	授業内容について、わかりやすくする工夫がなされていましたか。	
4.6	4.1	4.1	3	担任者の解説の声は、はっきりと聞き取れましたか。	
4.7	3.9	3.9	4	学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。	
4.4	3.9	3.8	5	教科書・配布資料の利用は適切でしたか。	
4.0	3.7	3.6	6	黒板の使い方やOHP、ビデオ、パソコンなどの機器による教材の提示の仕方は適切でしたか。	
4.6	3.9	3.9	7	担任者は、学生からの質問に的確に対応しましたか。	
4.6	3.8	3.8	8	全体としてこの授業を受講して満足しましたか。	
4.6	3.8	3.7	9	この授業を通じて、知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	
4.5	4.3	4.3	10	あなたはこの授業によく出席しましたか。	
4.0	3.3	3.2	11	あなたは予習・復習するなど、この授業に意欲的に取り組みましたか。	
4.3	3.9	3.8	12	この授業の教室の広さ、座席の形態などの教室環境は適切でしたか。	

■9割以上が満足し「知識が深まった、能力が高まった」

集計結果によれば、設問8では「強くそう思う」66.7%、「そう思う」28.2%、設問9では「強くそう思う」69.2%、「そう思う」28.2%となり、9割以上の学生が満足し「この授業を通じて、知識が深まった、能力が高まった」としています。こうした評価を裏付ける自由記述を紹介しましょう。

- 先生とクラスのメンバーに感謝です！！後期にこの授業をとってなかったら学校生活こんなに楽しくなかったと思う。文学部とは違った雰囲気、やる気ももらえた。自分の国語国文専修にもつながる文化の違いとかも学べたし、これから自分がやりたいことが見えてきました。
- 学ぶこと、伝えることで、くやしさを喜びを感じられるのはとても良いことだと思います。人を巻き込むこと、これはやりにくいことであり、あまりやりたくないことですが、これから社会に出ると必要なことだと思います。体験する環境が最近子供にせよ、大人にせよ奪われていると言われますが、こういった授業は日本では少ないようで、これからのグローバル化を生きる私たちには必要であるため、受講して良かったと思います。
- 将来、就活をするにあたって本当に役立つだろうと心底思います。この授業を選択して本当に良かったです。
- 後期はほんとうにあつという間だった気がします。1年間この授業を受講する事ができて、今振り返ってみると、4年間でいちばん学生らしい生活ができたな☆と思います。
- CWを毎週作るのは大変ですが、それなりに資料を探すときにいろんなことを発見して、正直に常識と知識は、そのうちに増えたな☆と思いました。

■高い評価は学生参画型と学生に向けられたもの

専門教育科目としては少人数という条件に恵まれているので、授業の成果に関する評価が平均値と比べて高くなるのは当然ですが、自由記述の結果もあわせて考えると授業形態としての学生参画型の有効性を示しているものと思います。ここで忘れてはいけないことは、この国際投資論では学生が中心となって授業をつくってきましたから、これは学生に対して与えられた評価だということです。その点で、今年度も「学びに生きる」真摯な学生たちに出会えたことに感謝しています。

■前期ラテンアメリカ経済論の改善点であった設備・機器の活用については0.7ポイント上昇し4.0に

同様の授業形態で行っている前期のラテンアメリカ経済論においては、設問「OHP、ビデオ、パソコン機器等の使い方は適切でしたか」に対して全学・学部平均を下回る結果(3.3)となり、設備・機器の活用が課題となっていました²⁾。これと今回の設問「黒板の使い方やOHP、ビデオ、パソコンなどの機器による教材の提示の仕方は適切でしたか」とを比較すると今回は0.7ポイント上昇し、全学・学部平均をも上回り4.0となりました。ただし、設問に「黒板の使い方」が新たに付け加えられたために厳密には比較できませんし、たとえ設問変更の影響がわずかだと仮定しても上記の設問に対する値4.0は昨年度国際投資論4.1、同ラテンアメリカ経済論4.3と同水準ですので、以前の水準に戻ったに過ぎません。前期のラテンアメリカ経済論との設備・機器の活用上の顕著な違いは、授業支援システムCEAS³⁾を導入したことです。このCEASによって授業時間外における学習や準備(企画の打ち合わせ)が容易になったことは、おそらく間違いないと考えています。このCEASの活用が一旦落ち込んだ評価(3.3)を以前の水準に押し上げたと推定することもできますが、CEASの活用が「機器による教材の提示」だと捉えずに回答した可能性も十分に考えられるので、どちらなのか結論づけることはできないでしょう。

■前期ラテンアメリカ経済論の改善点：引用出所の明示・信憑性の確保

前期のラテンアメリカ経済論では改善点として、授業で語られていることの信憑性をめぐる問題がありました²⁾。この点については前期と同様の指導を行うに留まっており、すべての資料・情報について出所がきちんと明示され、信憑性が確保されているレベルには未だ達していません。

■新たな改善点：「仲間意識」を乗り越える—真理を探究するマインドを共有する

➤ 意見をみんなが言っているときに、いつも“身内ノリ的”なものになっているのが、どうも気になった。いつも意見を言っている特定の人が友達同士で喋っている風なだけに、自分が言いたいことがあっても、なかなか入っていけないという状況があった。

改善点として、閉鎖的な雰囲気があったことが挙げられます。これは上記の自由記述に示されています。この授業ではディスカッションや授業の企画、感想ラベルによる交流などを通じて、学生同士気心が知れて仲良くなり、授業でのやりとりが日常生活のそれに近づいていきます。このこと自体は、授業で学ぶ仲間となっていくプロセスであり、学びが他者を必要とし、「仲間づくり」が「世界づくり」と「自分づくり」とともに学びの構成要素である以上、必要なことです。ただし、仲間意識が高まると「ウチの者」「ヨソの者」意識も生まれ、排他的で閉鎖的な雰囲気になりがちです。そうした雰囲気がこの授業に少なからずあることは確かなことでしょう。

これをどう解決していくか。学ぶ仲間を育みながら、常に外部に向かって開かれた「風通しの良い」授業をどう生み出していくか。その鍵は感情的な結びつきよりも「本当はどうなのだろうか」という飽くなき真理を探究するマインドを尊び育て共有することにあると考えます。

■学生とともに授業を常に改善し続けていく—アンケート結果を公開し授業改善につなげる

授業は常に改善し続けていく姿勢が大事だと思います。12月17日の第12回授業では、自由記述などに現れた批判的コメントを公開・配布した上で、学生による教員に対する批判によってこの授業の問題点を浮き彫りにしました。

これからも、感謝の気持ちと謙虚さを忘れずかつ勇気をもって、学生とともに真理探究の旅を続けていきたい。

1) <http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~shin/iiku-index-j.html>.

2) 詳しくは、長谷川研究室WEB「2004年度春学期・前期関西大学『学生による授業評価』アンケートに対するコメント：ラテンアメリカ経済論」http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~shin/laeku/laeku2004anq_comment.pdf。

3) CEASについては、関西大学「進化するe-Learningの展開」<http://www.kansai-u.ac.jp/gp2004/index.html>を参照してください。